

JAえちご中越 さんとう地域「契約栽培こがねもち」栽培暦

契約栽培もち米生産者部会

★ 消費者の皆様へ安全・安心な「さんとう産米」をお届けするために、化学合成農薬・化学肥料（窒素成分）を県認証地域慣行基準の1/2以下の使用量で栽培するものです。

月	4月					5月					6月					7月					8月					9月																						
日	5	10	15	20	25	5	10	15	20	25	5	10	15	20	25	5	10	15	20	25	5	10	15	20	25	5	10	15	20	25																		
出穂前後日数	品種特性に合わせた作業計画の策定																																															
生育ステージ																																																
	<p>《稚苗の規格》</p> <table border="1"> <tr><td>草丈</td><td>12.0cm</td></tr> <tr><td>葉齢</td><td>2.0~2.3葉</td></tr> <tr><td>第1葉鞘長</td><td>3.0cm</td></tr> </table> <p>*こがねもち：苗が徒長しやすい→緑化終了時の苗丈めやす：3cm</p> <p>【作業目安】</p> <ul style="list-style-type: none"> 4月3日 浸種開始 4月13日 催芽 4月15日 播種 <p>播種量の目安：140g/箱</p> <p>生育調節：全ほ場で溝切り</p> <p>肥料管理：的確な生育診断による適切な穂肥施用</p> <p>病害虫対策：病害虫防除対策の徹底（いもち病・紋枯病・カメムシ）</p> <p>収穫管理：気象予報と出穂以降の積算温度にもとづく「刈取計画の策定」</p>																									草丈	12.0cm	葉齢	2.0~2.3葉	第1葉鞘長	3.0cm																	
草丈	12.0cm																																															
葉齢	2.0~2.3葉																																															
第1葉鞘長	3.0cm																																															
病害虫防除	<p>【いもち病予防】ツインパディート箱粒剤 播種時~移植当日</p> <p>除草剤散布</p> <p>“補植苗”を早期に撤去する</p> <p>6月中旬~ 葉いもち病 { 早期発見 早期防除 }</p> <p>【カメムシ防除】スタークル剤 穂ぞろい期</p>																																															
水管理	<p>田植後→3~4cmのやや深手で植え傷み回避</p> <p>活着後→2~3cmのやや浅手で早期分げつ促進</p> <p>除草剤散布時→湛水状態(水深5~6cm)で散布</p> <p>中干し開始まで→浅水更新でフキの発生防止</p> <p>やや深水 → 一時湛水 → 浅水更新</p> <p>生育量を把握して遅れず!! 小ヒビが入る程度になったら終了</p> <p>飽水管理の継続 ⇄ タメ水厳禁 (異常高温時には一時湛水)</p> <p>フェーンの発生時：地域の水利条件等に応じた夜間水温を下げるこまめな水管理の徹底</p> <p>出穂後25日以降に最終かん水を実施!!</p> <p>中干し・溝切り</p> <p>落水期</p>																																															
栽培管理のポイント	<p>Point 1 ~適正な作業計画の策定により健苗を育成します~</p> <p>① 適期播種、適正な播種量、育苗期間20日程度で健苗を育成→徒長に注意</p> <p>② 土壌診断結果にもとづく土づくり資材(有機質・ケイ酸)の施用</p> <p>③ 作土深15cmの確保~ほ場条件に応じた適正量の基肥施肥 →基肥N施肥量のめやす：「10a当たり3.0kg」</p>																																															
	<p>Point 2 ~適期田植えで初期生育を確保します~</p> <p>① 移植前追肥(べんとう肥)の施用 →活着・初期生育を促進</p> <p>② 田植期のめやすは5月5日</p> <ul style="list-style-type: none"> ・栽植密度：60株/坪 ・植付本数：3~4本/株 ・植付深さ：2~3cmの浅植え <p>③ いもち病の発生しやすい地域・ほ場では予防防除(箱施用剤)を徹底→補植苗は速やかに撤去</p>																																															
	<p>Point 3 ~生育状況にあわせた生育調節で過剰生育を抑制します~</p> <p>① 目標穂数の80%(300本/m²=1株あたり17本)を確保してから→適期中干し開始</p> <p>② 全ほ場で溝切り(10条：3mに1本) →速やかなかん水・排水管理</p> <p>③ 本格的な梅雨入り前にしっかり地固め→中干しは小ヒビが入る程度になったら終了~遅くとも出穂30日前までに飽水管理へ移行</p>																																															
<p>Point 4 ~病害虫防除と水管理の徹底で稲体機能を維持します~</p> <p>① いもち病・紋枯病の早期発見~早期防除</p> <p>② 中干し以降は、田面が強く乾くことのないよう飽水管理を継続(強い中干し・タメ水→厳禁)</p> <p>③ 出穂後25日以降に最終かん水を入水(落水は出穂28日以降) ~異常高温時には、速やかに一時湛水~高温障害を防止</p>																																																
<p>Point 5 ~適切な生育診断による穂肥施用→品質・収量を確保します~</p> <p>① 穂肥は出穂18~15日前(幼穂：0.5~1.0cm)と10日前の2回に分けて施用→1回あたりの施肥量はN：1.0~1.5kg/1回、合計2.0~3.0kg/10aを目安とする</p> <p>② 2回目の穂肥は確実に施用する</p> <p>③ 急激な葉色低下がみられた場合は追加穂肥を施肥(特別栽培米基準の範囲内で施肥)</p>																																																
<p>Point 6 ~適期刈取、適切な作業により高品質米に仕上げます~</p> <p>① 出穂後の積算気温：1000℃を参考に、稲の黄化率(85~90%)を確認して適期に収穫する→胴割れしやすい→異常高温が予想される場合には早めの収穫を検討する</p> <p>② 穂発芽性は「やや易」→刈り遅れに注意する</p> <p>③ 収穫後は早めに土づくり資材の投入+稲わらの秋すき込み</p>																																																
<p>《施肥のめやす》 (成分 kg/10a)</p> <table border="1"> <tr><th>区分</th><th>時期</th><th>N成分</th><th>備考</th></tr> <tr><td>土づくり</td><td>収穫後</td><td>-</td><td>稲わら秋すき込み 有機質・けい酸質資材</td></tr> <tr><td>基肥</td><td>~田植え</td><td>3.0</td><td>地力に応じて</td></tr> <tr><td>穂肥1</td><td>出穂18~15日前</td><td>1.0~1.5</td><td>遅れず施肥~籾数確保</td></tr> <tr><td>穂肥2</td><td>出穂10日前</td><td>1.0~1.5</td><td>しっかり施肥~登熟向上</td></tr> <tr><td>合計</td><td>-</td><td>5.0~6.0</td><td>-</td></tr> </table>																									区分	時期	N成分	備考	土づくり	収穫後	-	稲わら秋すき込み 有機質・けい酸質資材	基肥	~田植え	3.0	地力に応じて	穂肥1	出穂18~15日前	1.0~1.5	遅れず施肥~籾数確保	穂肥2	出穂10日前	1.0~1.5	しっかり施肥~登熟向上	合計	-	5.0~6.0	-
区分	時期	N成分	備考																																													
土づくり	収穫後	-	稲わら秋すき込み 有機質・けい酸質資材																																													
基肥	~田植え	3.0	地力に応じて																																													
穂肥1	出穂18~15日前	1.0~1.5	遅れず施肥~籾数確保																																													
穂肥2	出穂10日前	1.0~1.5	しっかり施肥~登熟向上																																													
合計	-	5.0~6.0	-																																													
<p>《生育のめやす》</p> <table border="1"> <tr><th>生育ステージ</th><th>時期</th><th>草丈(cm)</th><th>茎数(本/m²)</th><th>葉色(SPAD)</th></tr> <tr><td>1回目穂肥</td><td>7/16</td><td>70</td><td>450</td><td rowspan="3">32.0</td></tr> <tr><td>2回目穂肥</td><td>7/24</td><td>-</td><td>-</td></tr> <tr><td>出穂期</td><td>8/3</td><td>88(稈長)</td><td>370(穂数)</td></tr> </table>																									生育ステージ	時期	草丈(cm)	茎数(本/m²)	葉色(SPAD)	1回目穂肥	7/16	70	450	32.0	2回目穂肥	7/24	-	-	出穂期	8/3	88(稈長)	370(穂数)						
生育ステージ	時期	草丈(cm)	茎数(本/m²)	葉色(SPAD)																																												
1回目穂肥	7/16	70	450	32.0																																												
2回目穂肥	7/24	-	-																																													
出穂期	8/3	88(稈長)	370(穂数)																																													
<p>《品質向上・収量確保目標》</p> <table border="1"> <tr><td>玄米1等級比率</td><td>90%以上</td></tr> <tr><td>10a当たり収量</td><td>540kg</td></tr> </table>																									玄米1等級比率	90%以上	10a当たり収量	540kg																				
玄米1等級比率	90%以上																																															
10a当たり収量	540kg																																															
<p>《品種特性》</p> <table border="1"> <tr><td>早晩生</td><td>耐倒伏性</td><td>葉いもち</td><td>穂いもち</td><td>紋枯病</td></tr> <tr><td>中生</td><td>弱</td><td>やや弱</td><td>中</td><td>中</td></tr> </table>																									早晩生	耐倒伏性	葉いもち	穂いもち	紋枯病	中生	弱	やや弱	中	中														
早晩生	耐倒伏性	葉いもち	穂いもち	紋枯病																																												
中生	弱	やや弱	中	中																																												
<p>《収量構成要素》</p> <table border="1"> <tr><th>収量(kg/10a)</th><th>1穂籾数(粒)</th><th>穂数(本/m²)</th><th>m²籾数(百粒)</th><th>登熟歩合(%)</th><th>千粒重(g)</th></tr> <tr><td>540</td><td>82</td><td>370</td><td>300</td><td>84%</td><td>21.0</td></tr> </table>																									収量(kg/10a)	1穂籾数(粒)	穂数(本/m²)	m²籾数(百粒)	登熟歩合(%)	千粒重(g)	540	82	370	300	84%	21.0												
収量(kg/10a)	1穂籾数(粒)	穂数(本/m²)	m²籾数(百粒)	登熟歩合(%)	千粒重(g)																																											
540	82	370	300	84%	21.0																																											